

初めてのママ友たちはシェリーさん

夫同士の職場が一緒だった、シェリーさんは、アメリカ人でした。

結婚してまもなく、同じ宿舎の彼女の住まいに招待されて以来、シェリーさんご一家が転動されるまでの4年間ほど、子育てをご一緒に頂きました。

その宿舎は、決して広いとは言えなかったのですがシンプルに生活できるよう、しかしおしゃれな小物も、粋に飾ってあって、見事にコーディネートされていました。

私が、ちょっとした生活のなかにも、おしゃれ心を取り入れましょと、提案している原点はここにあります。

たとえ、子どもが小さくても、テーブルクロスをかけること、おしゃれな食器を使うこと。友人家族との会食。小さな子どもを連れても行けるショッピングなど、本当に彼女の生活は、キラキラ輝く宝石箱のようで、お会いできる日が、楽しみで仕方ありませんでした。

そして彼女は私に、小さな子どもでも、一人の人間として、接することを教えてくれました。

また、チビちゃん達のお昼寝の時間に、ケーキやパンを焼いても見せて下さったことが、その後の私にどれほど影響を与えたでしょう。

イチゴジャム

季節ごとに、旬の果物、野菜をたっぷり食べたいものですが、春先、ジャム用イチゴが出回るころは、特に嬉しくて、よくジャムを作ります。

すぐに食べてしまうときは、イチゴと同量の砂糖を、一緒に鍋に入れて、10分ほど置いたら、火にかけ、ふわーっと沸騰してきたら、火を弱めて、10分ほどで煮上げますが、少し保存しておきたいときは、次のレシピを使って下さい。



材料

イチゴ 300g
砂糖 200~300g
レモン汁 大サジ 2

作り方

- ① イチゴは、よく洗って水気を切り、へたを取る。
- ② ホーローや、ステンレスの鍋に、イチゴを入れ、砂糖をまぶし、1時間 くらいそのままおく。
- ③ 鍋を火にかけ、レモン汁を加えて、焦げないように、緩やかに、混ぜながら、30分ほど煮る。

謝るということ

結婚したばかりのころ、夫が、宿舎でうまくいくには、まず何かあれば、「謝るといいよ」と言いました。

それまでは、正しいことは正しい、間違いは間違いと、結構きつく物事を捉えてきたので、

「ふーん、そんなものなのかなあ」と思いました。

しかし、そのおかげで子育てをするときも、コップを割った、牛乳をこぼした、箸書きした、卵を上から落としたなどと、本当にありとあらゆる事態に遭遇するたび、「ごめんね、ここに置いておいたからだ。」

「ごめんね、絵を描く紙が足りなかったんだ。」と、自然に言えるようになりました。

もちろん、そう簡単には言えなくて、暗澹たる気持ちになった日の方が多いのですが、先日、「青少年にとってのよい環境を考えるつどい・子どもの心の声を聴こう」という講演会に行きましたが、講師が、頭から、その子を否定するのではなく、軟らかく声かけをして信頼関係を築いてから、こちらの気持ちを伝えるというプロセスが大事だと話されました。なんとなく、夫の言ったことの裏付けが、取れたとでも言うのが、妙に納得しました。しかし、夫は、果たして20数年前の自分の発言を覚えているでしょうか。



簡単おしゃれクッキングの必須アイテムは、どういふわけか、夫がミシンをかけてくれたテーブルクロス、一年中、庭に咲く小花たち！

